

『神戸詩人』事件』から80年+1 姫路シンポジウム

自由ってなに？

表現する若ものたち

2021年11月7日(日) 午後1時30分〜4時

姫路文学館講堂(姫路市山野井町84) 電話079-293-8228

JR・山陽電車 姫路駅前より神戸バス⑨⑩⑬⑭乗車、
「市之橋文学館前」下車・徒歩4分

◆事前申込不要(当日先着順に受付、定員100名)

◆資料代1000円(当日ハンフレット代、および後日編集発行する冊子代として)

時を超えて問う、姫路の文学と美術

『神戸詩人』事件から70年が経過した2010年11月20日、神戸文学館(神戸市灘区)においてシンポジウムを行いました。事件発生から81年目となる今年は姫路から、この事件をふたたび検証することで、表現の自由とは何かという普遍的テーマを討議したいと思います。

今回の報告者とパネリストには、①事件の文学的・社会的背景の分析にはじまり、②『神戸詩人』誌に投稿した詩人たちが依拠したシュルレアリスム文学との関係、③今を生きる詩人から検挙された詩人たちへの語りかけと、戦後のIOM同盟につながる姫路の詩的土壌、そして④戦前における姫路・播磨の詩文学と美術の交流と共に、戦後に花開いた現代美術へと展開する流れについて確認するなど、戦前=〈過去〉から戦後=〈現代〉へと継承されてきた姫路の文学・美術のありようを語っていただく予定です。

シンポジウムの幕開けは、戦間期のパリでシュルレアリストと交流のあったサティのピアノ曲の演奏をお楽しみください。

プログラム(登壇予定者敬称略)

- (1) ピアノ演奏 西尾知子(曲目「サティ「ジムノペディ」第1番、「グノシエンヌ」第1番〜第4番)
- (2) 基調報告 出口麻奈(明治大学准教授、戦後詩研究者)
- (3) パネルディスカッション
田口麻奈
京谷裕彰(詩人・シュルレアリスム研究者、姫路出身)
大西隆志(詩人、姫路在住)
原田哲郎(美術家、姫路在住)

- (4) 朗読 司会進行 大橋愛由等(詩人・俳人、図書出版まろうど社代表)
主催 エクリの会「神戸詩人」事件にかかわった姫路・播磨関係の詩人たちの作品

主催 エクリの会「事務局」〒656-0081 高砂市阿弥1-11-24 高谷和幸 TEL. 079-447-3652

〔お問合わせ・連絡先〕「神戸詩人」事件から81年姫路シンポジウム実行委員

高谷和幸 takahira_kk@yahoo.co.jp

大西隆志 furudou@gmail.com 大橋愛由等 maroad66454@gmail.com

後援 兵庫県現代詩協会・姫路地方文化団体連合協議会(姫路文連)

【新型コロナウイルス感染拡大防止のために】
ご来場の皆さまへお願い

- ・マスク着用、検温、手指消毒にご協力ください。
- ・発熱等の症状がある方は来場をお控えください。
- ・状況により、実施内容の変更や入場制限などを行う場合があります。

公益財団法人姫路市文化国際交流財団 助成事業

『神戸詩人』事件』とは……

1940年(昭和15)、『神戸詩人』というモダニズム系の詩誌に投稿または関係していると嫌疑をかけられた17人が、治安維持法違反の罪にとわれて検挙・取監されました。戦時体制の流れにより、川柳、俳句、短歌などでも、つぎつぎと文学者の検挙・弾圧が行われた時代でした。

神戸詩人事件で検挙された17人のうち10人は、姫路・播磨の関係者です(旧制姫路中学校、旧制姫路高等学校の在校生、卒業生など)。事件名こそ「神戸詩人」事件ですが、関係者の多さからすれば「姫路詩人事件」とも呼べるかもしれません。